

生産情報

農業振興課主任 齊藤 大貴



りんごの生育状況

ふじの肥大は、管内平均で70.4mmとなっており、昨年よりも8.4mmほど大きく推移しています。また、平年値と比較した場合は7mm上回っています。

乾燥している場合は灌水も！

果実の日焼け防止の観点から、高温時の支柱入れ等は避けましょ

表1：管内の品種別りんご肥大状況（8月1日調査）

品 種	横径（単位：ミリ）					
	湯 口	紙漉沢	相 馬	平 均	昨年比	平年比
ふ じ	74.3	63.9	73.0	70.4	113.5%	111.0%
王 林	66.1	66.8	70.3	67.7	115.9%	109.7%
つがる	76.6	78.9	80.9	78.8	116.2%	110.4%

※平年値は過去10年間平均値

う。また、苗木や若木は乾燥の影響を受けやすいため、乾燥している場合は灌水を行いましょ。

りんご作業（8月15日～9月15日）

過度な葉摘みをしないように！

過度な葉摘みや玉回しは、果実の日やけ・軟質化に繋がるため注意して下さい。尚、極早生品種をはじめとする本年産りんごの収穫も始まってきました。消費者へ本来の食味を届けるため、鮮度重視の適期収穫をお願いします。

枝折れに注意！

果実肥大とともに枝が垂れ下がってきます。支柱がしっかりと設置されているか再度確認しましょ。また、枝を上げすぎると日やけ果の原因となるので注意して下さい。

ハダニ・カメムシに注意！

本年はリンゴハダニの発生が多く見られます。また、昨年多かったカメムシ被害に十分注意し、予防を図りながら適期防除に取組ましょ。

水稲について

登熟期に入ります。高温時には時々水の入替えを行い根腐れ防止に努め、低温時は深水にして登熟促進に努めて下さい。

カメムシ被害軽減のため、9月に入るまでは畦畔の草刈りを実施しないようにして下さい。また、刈取前には、早期の落水を行わないようにして下さい。

●薬剤の使用基準一覧

殺菌剤	収穫前日数	年間使用回数	殺虫剤	収穫前基準	年間使用回数
ダイパワー（水）	前日	3回	サイハロン（水）	7日	3回
ストライド（顆水）	前日	3回	イカズチWDG	前日	2回
オーソサイド（水）	前日	6回	フェニックスF	前日	2回
			エクシレルSE	前日	3回

注）キャプタンを含む農薬は年間合計6回以内（ダイパワー・オーソサイド・アリエッティC）。

●りんご病害虫防除暦（第11～12回目）

回数	散布量	散布時期	基準薬剤	希釈倍数	備 考
11	500 $\frac{g}{ha}$	8月下旬	ダイパワー（水） イカズチWDG カルシウム剤	1,000倍 1,500倍	シンクイムシ類の食入防止の為、ピレスロイド剤を使用すること。
12	特散 500 $\frac{g}{ha}$	9月中旬	ストライド（顆水） 又はオーソサイド	1,500倍 800倍	前回からの散布間隔が開きすぎないように注意する。尚、ストライド（顆水）は高温時に散布すると薬害を起こす可能性がある所以注意する。

注）9月中旬の特別散布が9／10よりも早い場合、再度特別散布を実施する（薬剤散布最終目安：9／15頃）。

青年部通信

事務局 時苗 陸



青年部では、7月8日（水）に通常総会を開催しました。当日は夏風邪の流行なのか体調不良によって何名かの部員が欠席となりましたが、無事に開催することができました。

総会では議案等もスムーズに進めることができ全議案可決されました。

また、今年度は7名の勇退を予定していましたが、3名が勇退され、4名が残留されることになりました。これを機に青年部組織としてさらなる団結がより重要になると感じています。今後は相馬管内における若手農家の方に青年部組織の周知を行い、今後とも青年部組織としてあり続けるために勧誘などもしていきたいです。

また、7月22日（水）には第3回青年部学習会を開催しました。スプレーヤーの取扱いや展着剤、カルシウム剤などの必要性といった内容について学んでいきました。参加者が少ないなかでの今回の勉強

会でしたが、講義の内容に対し質問等がたくさん出ていたため、農家の疑問を解決できるいい機会となりました。今後も開催していく予定のため、より内容の濃い勉強会にしていきたいと思います。



いきいき女性部通信

事務局 堀井 裕子



7月17日、女性部の夏期研修を行い、31名が参加して秋田市へ向かいました。バスの故障というハプニングもあり、マイクロバス2台での移動となりましたが、参加者からは「大型バス1台より乗り降りしやすいね」といった前向きな声も。行きから明るく楽しい笑顔があちらこちらにあふれていました。

秋田市に到着後、ホテルでの豪華なランチバイキングを堪能しました。「どれも美味しいね」「〇〇が美味しかったよ、食べてみて！」と、皆で和気あいあいと食事を楽しみました。その後、秋田市民民俗芸能伝承館「ねぶり流し館」へ立ち寄りしました。「ねぶり流し」とは、古くから伝わる祖先の霊を弔う行事と、豊作を願う庶民の祈願が結びついて盛んになったものです。祖先の霊が迷わないよう、家の前に灯りを高く掲げる風習があり、これが江戸時代に子どもや若者たちが長い竹竿にたくさんの灯

籠をつけて町中を練り歩く秋田竿灯まつりとして知られるようになったとされています。この伝承館では、実際の竿灯の見学をはじめ、約1キロのミニ竿灯の差し手体験、祭りの歴史や文化について深く学ぶことができました。帰るときに立ち寄った直売所では「秋田と言えばやっぱり日本酒！」と家族へのお土産を熱心に選ぶなど最後まで笑顔の絶えない一日となりました。「宿泊での研修もいいね」「来年はどこへ行こうか」と、早くも来年の夏期研修に期待を寄せる声も多く聞かれ、参加した皆さんに心から喜んでもらえる企画を考えたいと思います。



来年もみんなで行きましょう♪